

第4回伊賀市都市マスタープラン策定委員会 議事録

- 1 開催日 令和3年3月15日(月)
- 2 開催時刻 午後 13時30分
- 3 閉会時刻 午後 15時07分
- 4 開催場所 伊賀市役所 5階 501会議室
- 5 議事
 1. あいさつ
 2. 策定スケジュールについて
 3. 議事
 - ・伊賀市都市マスタープラン(たたき台案)について
 4. その他
- 6 出席委員 浦山委員長、滝井副委員長、坂本委員、中島委員、奥澤委員、村上委員、松永委員、福地委員、西口委員、森西委員、吉田委員、松本委員、窪田委員、谷委員、大森委員、森本委員、平井委員、井久保委員、南委員
- 7 欠席委員 大田委員
- 8 事務局 山本 建設部長、山本 建設部次長、小西 建設部次長兼企業用地整備課長、川部 都市計画課長、葛原 都市計画課開発指導室長、深尾 都市計画課公園景観管理係主幹、中林 都市計画課公園景観管理係主任、中森 都市計画課開発指導室主査、福岡 都市計画課公園景観管理係
- 9 傍聴者 0名

13時30分開会

議事開始

1. あいさつ

(市長) この年度末のお忙しい中で、また、コロナ渦の状況の中で、参加していただきありがとうございます。なるべく換気をして会議を進めたいと思います。

伊賀市というところは、魅力や可能性に富んだところだと思っております。伝統、文化、自然、産業など様々なものがありますが、市民には気付かないところ、盛り上げていかなければいけないところ、直さなければいけないことが多々あるところだと思っております。また、近年では、20世紀遺産20選のまちに選ばれたこともあり、将来残す、あるいは将来活用していくという視点を持つていくことが大事だと思っております。

改めてできること、あるいは、それを守り育てていくこと、場所が変わるもの、変わらないもの、大事にすべきもの、まさに不易流行のまちづくりが必要であろうと思っております。

各地域や団体など、様々な目線の人に集まっておりますので、20年後を見据えたすばらしいプランをお作りいただけるものと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

(事務局) 新たな委員 (上野地域東部地域住民自治協議会・南委員) の紹介 (略)

2. 策定スケジュールについて

(事務局) 伊賀市都市マスタープラン策定スケジュール (案) について説明 (略)

3. 議事「伊賀市都市マスタープラン (たたき台案) について」

(事務局) パワーポイント資料について説明 (略)

(委員長) 事前配布資料の「伊賀市都市マスタープラン (たたき台案) の概要と論点について」の「(1) 都市づくりに向けた主要課題」、「(2) 都市づくりの目標」、「(3) 将来の都市の構造」については、事前に委員の方々の意見を聞いて整理しますと約束されているので、提出された意見を紹介いただけますか。

(事務局) 「伊賀市都市マスタープラン (たたき台案) に関する意見 (抜粋)」について説明 (略)

(委員長) 今日は、「(4) 都市づくりの戦略方針」を中心に議論するという提案がありますが、その前に、伊賀市を取り巻くまちづくりの課題を整理して、それに対応するために都市づくりの目標が掲げられています。これについて、皆さんご納得いただきましたでしょうか。ご意見がございませうか。

伊賀市を取り巻く雄大な自然、その中の拠点という都市構造をつくることによって、魅力的な住まい、活力ある生業というものを育てていって暮らしやすい都市にしていきたいと思いますという提案になっていますが、その中で、今日議論してほしいテーマは、たくさんやらないといけないことはありますが要になるようなテーマを設定すると、「上野中心広域的拠点のまちづくり」、「上野南部広域的拠点のまちづくり」、「地域包括拠点及び地域拠点のまちづくり」、「魅力的な居住環境と働く場の確保」の4つを戦略的に進めていきたいと思いますという整理がしてあります。今日ご議論いただきたいのは、その中の「上野中心広域的拠点のまちづくり」と「地域包括拠点及び地域拠点のまちづくり」という事務局からの提案になっていますので、これに沿って進めさせていただきたいと思ひます。

はじめに、「上野中心広域的拠点のまちづくり」について議論したいと思ひます。「伊賀市都市マスタープラン (たたき台案)」の25ページに示されている旧城下町の範囲を、上野中心広域的拠点のまちづくりをテコ入れしていこうということになっております。都市拠点というふうにと考えると、旧城下町北側の商業施設や旧城下町周辺の医療施設を含めて上野市街地に期待するところは大きいと思ひますが、今日テーマになっているのは、歴史・文化の継承をテーマにして、上野中心広域的拠点のまちづくりを進めていくことで、より伊賀らしさを高めるという位置づけになっています。「伊賀市都市マスタープラン (たたき台案)」の

28 ページに「暮らしと文化的景観が紡ぐ交流のまちづくり」という実現目標がありますが、大型スーパーや病院といった都市機能として重要な商業や医療だけではなく、交流を中心として「暮らしと文化的景観が紡ぐ交流のまちづくり」をテーマにまちづくりをしていきたいと思いますという位置づけになっています。「伊賀市都市マスタープラン（たたき台案）」の 29 ページのように、「中心市街地活性化基本計画」、「歴史的風致維持向上計画」、「空家対策計画」の計画事業を進めようとする、都市計画上の大きなネックがあり、都市計画道路の未整備区間の対応、下水道（汚水）の対応、防災対策をどのように進めていくのかということが、都市計画上の課題になります。

「伊賀市都市マスタープラン（たたき台案）」の 31 ページでは、必要なところは道路を拡幅するが、城下町の基盤はできるだけ維持して交通でさばっていく、ここは歩行者中心にする、ここは車を流すというようにして、やたらと道路を拡幅しないという提案になっています。

「伊賀市都市マスタープラン（たたき台案）」の 32 ページには、老朽化や空き家化したところが転売され開発されると、まちが随分変わる、住みにくいには汚水の問題がある、防災的には家が比較的建て込んでいるので空地がない、このような問題に対応するために、どうしていったらいいかということが示されています。

「伊賀市都市マスタープラン（たたき台案）」の 33 ページには、上野城下町ホテルのような新しい動きがありますという整理がされています。

このように、ここは中心部なので商業はありますが、住んでいる方もいるので、暮らしと文化的景観を維持することによって、人に来てもらって新しい交流、観光系のまちづくりを進めていくという方向性が提案してあります。

「伊賀市都市マスタープラン（たたき台案）」の 32 ページの「街区計画の例」では、表通りに面した歴史的な家屋があるところは保存・活用して維持していきましょう、街区の中はオープンスペースにしたり、排水施設を作ることによって、現代的なライフスタイルにあったようなまちにしていきましょうという提案があります。この方向性としてはすばらしいと思いますが、これを誰が実施するのかということが疑問に思いました。

(副委員長)「伊賀市都市マスタープラン（たたき台案）」の 32 ページの「街区計画の例」のようなことができればいいと 20 年前に既に考えていた。

例えば、二之町と三之町の筋の間に、江戸時代から背割り水路に下水を流していた。これはまだ生きている。公共下水道は整備されていないので、台所排水や雑排水は全てそこに流している。合併処理浄化槽を整備しているところはそうではないが、ほとんどの家はその水路を使っている。

近年、上野のまちに戻ってきて、このまちを歩いてみると、その家の断面が見える。一つの敷地が解体されると、表、中、裏の大きく 3 つのゾーンに分かれている。中に中庭やお蔵がある。裏がどのようになっているかということ、ほとんどお庭になっている。そのお庭の先に背割り水路がある。そのお庭を提供していた

できれば道ができるのではないか。お互いに2 m後退していただければ、そこに4 mの道ができる。土地を提供していただく。そこには下水を作ることができる。そこに電柱が建てられる。4 mで道路は機能するので緊急自動車が入ることができる。駐車場もできる。我が家の駐車場も共同の駐車場もできる。そうすると表通りは解放される。電柱がなくなり景観が綺麗になる。

このような構想を20年前に考えていた。市のある会議の場で、このことを提案したが、誰が行うのかということになり誰も手が上がらなかった。

地元の人達が、このようなことをやろうという声があがっていかないと、まず無理である。行政が音頭をとっても無理だと思っている。小さい宅地が解体されてもそのままである。駐車場としても中途半端で使えない。間口がせいぜい5~6 mである。その宅地が3つ、4つ集まるとミニ開発になる。

パワーポイント資料の15ページ左下の図に示された宅地は、昔は大きな染物屋である。染物屋の大きな土地が売られてミニ開発が行われている。このタイプのミニ開発が多く起こっている。今その危機にあるのが東部地区の車坂である。上野を代表するような町屋が残っていたが、そこが空地になって、恐らくこのタイプのミニ開発が起こってしまう。これは防ぎようがないという気がしているが、ここに書かれているプランをどう実現したらいいか20年間悶々としている。

この計画を、まず地元を下ろしていくことが必要ではないかと思う。地元の意向を探りながら、やはり行政の力が必要になると思う。

このようなことができれば非常にいい。街区単位でできないのであれば、数軒集まって後ろ(裏)に道を作ってはどうかということもあり得るのではないかと思う。20年間絵に描いた餅だったが、初めてこのような場で計画が出てきたので、皆さんのお知恵が得られればいいと思う。

(委員長) 建築家は図面に描いた提案はいろいろできると思いますが、これをそれなりの費用で実現しようとする、誰がどのようにやるのかということがテーマになる。自分の家は建て替えをしなければいけないので、建て替えする時に少しずつ土地を出して道路のような空間を作って繋げていくというような、個人の建て替えをベースにしたようなまちづくりの方法もあると思います。しかし、それを誰がコーディネートするのかというのが問題になります。

今までの都市マスタープランは、都市計画法で定める道路や公園をどのように作るのかということが主なテーマ(仕事)でしたが、実は、それだけではまちは動かない。体制づくりをどうするのか、ハードばかりではなくソフトをどう作っていくのかというのが、現在あるいは近未来の都市計画の大テーマになります。それが動かないと、恐らく中心市街地のまちづくりは苦戦するのではないかと思います。

(委員) 中心市街地の街並みがかなり潰れてきて宅地に変わってきている。良い面は、三差路の交通が危ないが、住宅地ができれば道路が公の道になるのでよいと思っている。下水道に関して残念なことは、25年~30年前に流域下水道をなぜ持つてくることができなかったのか。中心市街地で近代的なまちをつくらう、古い街並みを残

そうという中で、観光客に来てもらう中で、バキュームカーが目の前を通ることはおかしいと思う。

(委員長) 土地を動かそうとすると難しい問題がありますが、時間をかけて少しずつやっ
ていこうということになると、その間にまちが変わってしまうので、「伊賀市都市
マスタープラン(たたき台案)」の33ページでは、今あるストックを有効活用して
いこうという提案です。これは、今ある財産を少し磨いて有効活用していこう、ま
ち全体を城下町ホテルという方法で優れた資源をホテルとして活用していきまし
ょうという考え方です。これを実施する観光地域づくり法人のような組織ができ
ると、そこがよい財産を探して有効活用していく、マネジメントしていくというやり
方です。

少し長い目で見て、土地を動かしてまちを維持していくというやり方と、今ある
ものが壊れてしまうとまちは変わってしまうので有効活用していきましようという、
二段構えの提案になっています。

(委員) ある程度理想の形を入れたい。こういう方向性で行くというのもあってよい。

(委員) 都市づくりの戦略方針の「上野中心広域的拠点のまちづくり」と「地域包括拠点
及び地域拠点のまちづくり」について、意見を書かせていただいた。

上野中心広域的拠点のまちづくりの「産業を創造する観光資源を活用した知的対流
拠点づくり」の活動主体の一員(オブザーバ)として、南山城村から体験観光づくり
の団体や、道の駅運営主体なども参画し、意見交換のメンバーとして入れていただ
ければと思った。先週の3月12日に道の駅の横にホテルができ、内覧会や体験宿泊を
行い、ホテルに対して意見を言う場を設けてもらっている。

また、今年度から南山城村でも観光推進計画を策定している。

過疎地有償運送として、地域公共交通協議会を立ち上げ、2年を経て正式な交通協
議会での運営に移った。

私どもは、観光産業と移動・交通を分けて考えていない。それをうまく組み合わせ
て、人の流れをスムーズにすることに重点を置き、同時に地域ビジネスの仕組みへの
刺激も視野に入れて、観光と移動・交通を一緒に議論している。これに携わる人間を、
上野中心広域的拠点のまちづくりの意見交換の場のオブザーバとして参画して、内発
的な地域資源の創出・発展に繋げてウィン・ウィンの関係でいけたらと思った。

図面に関しては、都市マスタープランの中の1箇所、2箇所でも構わないので、「伊
賀・山城南・東大和定住自立圏」の市町村を入れていただきたい。事前に題した意見
の文章を読ませていただく。

『「伊賀らしい歴史・文化・自然環境」には、この圏域のつながりは古代から現在ま
で脈々と続き、資料を目にする方に、直感的にも生活圏を共有する地域として認識さ
れると思います。基本的にこのことは定住自立圏の枠内で果たされていますが、マス
タープランの「地域産業興し」及び、「移動、交通」に関連する部分だけでも、「伊賀・
山城南・東大和定住自立圏」の市町村が明示されるような図が配置されると良いので
はと考えます。』

このような意見を、今日の論点に関連するものとして出させていただいた。

(委員長) 中心部の計画に入れ込むことは難しいと思いますが、計画の前半で、上野中心市街地が魅力を高めると、布石になって南山城のほうに波及効果が繋がっていく、逆に、南山城で様々な取り組みが進んでいくと、その客が上野中心部に誘客できるという位置づけをしていただけるといいと思います。

(委員) 南山城の域外に移動する交通は、木津へ行く交通と伊賀へ行く交通が 50 対 50、あるいは 55 対 45 になっている。買い物、病院、学校、遊びに行く場は、南山城から東に向けて出ているという現状がある。私も佐那具に住んで南山城に仕事に行っている。村長も 40 年間伊賀に工場を持って南山城から通っていたという経緯があるので、笠置を含めて観光と移動・交通をひとつに捉えた動きというのが、お互いのウィン・ウィンの関係になると思っています。

(委員長) 県外から、「上野中心市街地頑張れ」というご意見だと思います。

「上野中心広域的拠点のまちづくり」について、この方向性で大きく異論はないということでしょうか。都市マスタープランは方向性を示すということなので、具体的なネックは別の事業計画等の中で対応していただくことにしたいと思います。

次に、「伊賀市都市マスタープラン（たたき台案）」の 42 ページからの「地域包括拠点及び地域拠点のまちづくり」について議論します。現在の都市マスタープランは、地域拠点は支所を中止としたエリアを設定して、生活を支えるような様々な生活サービスがあるので、それを維持していきましょうという位置づけだったのですが、これに福祉的なサポートシステムを組み合わせようというのが特徴になっています。

「伊賀市都市マスタープラン（たたき台案）」の 44 ページを見ていただくと、「地域主導の攻めと守りの拠点づくり」と書いてあります。前回の都市マスタープランで考えた地域拠点の役割は、生活の維持・向上というところで、今回の守りの生活サービスを進める拠点の位置づけでしたが、今回はこれに地域主導の攻めも地域拠点をベースにさせていただこうという方向づけになっています。

誰がやるのかということになると、提案では、公共が率先してやるのではなく、地域のいろいろな取り組みをしていただくことになっています。まちづくりは、場と体制づくりの両輪で進めていく必要があると思います。「伊賀市都市マスタープラン（たたき台案）」の 45 ページに体制づくりの模式図が書いてありますが、様々な農業系の方々が取り組んでいるものや、観光系、福祉系の人々が障がい者、高齢者と一緒になって新しい仕事づくりをしている、それらをうまく支えていく「起業支援中間組織」のようなサポートシステムを作っていく、それを育てていこうという提案になっています。個々が新しい仕事づくりの核になっていく地域拠点に育てていこうという提案になっています。

「伊賀市都市マスタープラン（たたき台案）」の 45 ページに、6 次産業ではなくて 7 次産業というキーワードが書かれていますが、伊賀市社会福祉協議会の取り組みを含めて地域拠点に期待するもの、ここで提案されているものでいいか、さらに深める必

要があるのか、ご意見をお願いします。

(委員) 7次産業は伊賀市社会福祉協議会でも提案させていただいている。6次産業は、伊賀市ではモクモクファームが生産から販売までの6次産業として名を馳せている。6次産業に福祉を入れていただいたら7次産業の枠組みになるのではないかとということ、7次産業化のイメージを提案させていただいている。「伊賀市都市マスタープラン(たたき台案)」の46ページの図がそのイメージである。お年寄りや障がいを持つ方ひとりひとりが役割をもって力を発揮していただくという発想で、これまでは栗を各地域に植えて、それを加工し、商品化するという動きがある。その取り組みを加えていただくと非常にいいのではないかと思う。

(委員長) そのような取り組みを、より育てていくためには、どのような支援があったらいいのでしょうか。

(委員) 様々な方が栗を植え育てていただいているが、県の農業試験場の方やJAもご協力いただいている。自治協など様々なところで栗を育てていただいている。栗だけではなく、伊賀が持っているいろいろな産品を7次産業化することができるのではないかと思っている。一方で、伊賀市全体が高齢化しているので、若い人に来てもらい担い手になっていただくことが可能となれば、もう少し前に進んでいくのではないかと思う。それから、外国の方が伊賀市内に多く定住していらっしゃる。これらの方々は主にライン作業に従事していらっしゃるので、7次産業化の担い手になっていただける可能性があるのではないかと思う。

(委員長) 「伊賀市都市マスタープラン(たたき台案)」の46ページから47ページに、各地域の動きが紹介されています。例えば、島ヶ原地域の(一財)しまがはら郷づくり公社は、知的対流拠点に育てるべき組織という見方ができるのではないかと思います。これをより拠点として育てようとする、ここに書いてある提案のいいのでしょうか。さらに深めないといけないところがあるのでしょうか。

(委員) (一財)しまがはら郷づくり公社は、地域の人は育てていきたいと思っている。ただし、人材的な面がかなり欠けている。我々市民も、もう少し地域に対して貢献していくために地元に入っていかなければいけない。ポテンシャルはある。隣の南山城村でもいろいろな取り組みをされているので、一緒にやっていたらと思う。そのアドバイスがあるとよい。

(委員長) 既に活動されているので、場はあると思いますが、例えば、地域拠点でこの活動を支えようとする、地域拠点は何をすべきでしょうか。

(委員) アイデアと資金的な援助をお願いしたいと思う。一般企業から島ヶ原を拠点に温泉を利用してレジャーランド的なもので活性化していこうという提案をいただいている。それに乗って発展させていきたいと思っている。

(委員長) 「伊賀市都市マスタープラン(たたき台案)」の45ページの起業支援中間組織が、地元で活動されているグループや組織をまとめて、ニーズを掘り起こして、お金がないのであればお金を取ってくるなど、これらのことをマネジメントできるような役割を果たしてもらいたいということだと思います。これは、行政が一番不得意なことだ

と思いますが、誰がやればいいのでしょうか。

(委員) コロナ渦の中で、今までの大規模集中から小規模分散というキーワードになりつつある。これからは地域・地元がどのようにしていくのかということが一番大事になると思っている。伊賀市の場合は自治協議会があり、自治協議会主体で様々な事業をやっているが、より活性化していく必要がある。これまで様々なツールはあったがあまり活用されていないし、伊賀市のPR不足もある。総務省においても、思い切った施策展開にしようということになっていて、例えば、ひとつ紹介させてもらおうと、地域づくり事業協同組合という制度がこの4月から発足している。協同組合で法人格をつくって地域づくりのいろいろな事業ができることになっている。赤字になっても市から補填してもらえぬ制度である。この制度を使っていただくことで、人材派遣や福祉有償運送など様々なことができる可能性がある。

もうひとつは、誰が担って誰が仕事をやるのかという時に、地域プロジェクトマネージャーの仕組みもある。市の職員もこれからお手伝いさせていただこうと思っているが、地域に入ったような支援の制度はたくさんあるので、伊賀市と地域が一緒になって伊賀流自治を作っていく必要があると思っている。来年度以降、新たな展開になると思っている。ポストコロナでこれまでの東京一極集中ではだめだという中で、地域から分散で活性化しようという仕組みを都市マスタープランで考慮してはどうかと思う。これは伊賀市だけではできない、地域と一緒にやっていく必要があると思っているので、議論を深めていただければと思う。

(委員) 地域プロジェクトマネージャー制度を活用して具体的に進めるにあっては、市役所には限界があると思っている。市役所ではできない。都市マスタープランには取り入れていただき、地域が責任を持って進めるということにしなければならないと思っている。大きなプランは市で策定してもらって、その後はそれぞれの地域に任せていただきたい。伊賀地域では、ある企業と地域づくりを行っている最中である。我々にはお金がないので企業に資金を出していただいて、企業を中心にまちづくりの事業をやっていただく。我々がそこへ地域としての意見を出させていただく。そして地域のまちづくりを進めていくというように、これからはしていかなければならないと思っている。

地域では6次産業化が進んでいる。地域は地域でどのように活性化していったらいいのかということを考えている。地域のことは、地域の者しかわからないことが沢山あるので、具体的に作っていく時には地域に任せる。後の舵取りは市にやっていただく。地域が責任を持ってやっていくべきだと思う。私達はそのように進めてきたし、これからもやっっていこうと思っている。

産業は農業、工業は地域に沢山ある。福祉についても、それぞれの地域にセンターがある。商業施設も最近郊外に出ているので地域にある。まち医者も市民病院と連携をとってくれている。交通もJRや近鉄、名阪国道のきちんとした交通網は持っているが、細分化した交通網は地域が責任を持ってつくっていかなければならないと思っている。

今は、地域が責任を持って地域づくりを行っていく大きなチャンスである。伊賀市が行政としてしっかりと方向性を示す、それに基づいて地域が具体的なことを行っていくというようにしなければならないと思っている。

(委員長) 地域プロジェクトマネージャーは地元の方ですか。それとも起業支援中間組織になるのですか。

(委員) 地域のことわかっている、地域に責任を持てる人が地域プロジェクトマネージャーになる。何人になるかわからないが、このような人がいないとダメである。その人たちを中心に、地域づくりを都市計画と一緒に検討していかなければならないと思う。

(委員長) 青山地域では、いくつかの取り組みが紹介されています。青山地域のいろいろなところで展開されていると思いますが、このような活動を支援しようとする拠点は必要ですか。あるいは、拠点にどのようなことが必要でしょうか。

(委員) それぞれの取り組みについて、将来的このような拠点づくりにしていければと思う。青山地域では川上ダムが完成する。ダムのことはあまり書いてないがダムを含めた地域の活性化を行いたいと思う。SDGs 大学との協力によるショートステイ施設の整備により交流を広めたい。メナード青山リゾートとのコラボはさらに広げていきたい。

(委員長) いろいろな活動は地域の中で展開されるでしょうけど、例えば、そこでできた産品を地域拠点に持ってきて、そこで生産・加工・販売するような機能を発揮する、あるいは、地域にいろいろしてほしい時には支援をするような拠点になるという位置づけになるのではないかと、今の意見を聞いて思いました。

「地域包括拠点及び地域拠点のまちづくり」に関しては、地域の生活を守るだけではなく、そこで住み続けられるような新しい仕事づくり・産業づくりというものを育てていくような拠点にしていきましようという方向づけになっていますが、これまでの意見を聞いていると、この「伊賀市都市マスタープラン（たたき台案）」が矛盾するものではないという印象を持ちました。

(委員) 市外から来た者からすると、伊賀市はお米とか野菜がとても美味しい。城下町の街並みも残したいと思う。難しいかもしれないが、少しずつでもいいから土地利用条例を変えながら、都市マスタープランの提案が実現できればうれしいと思う。

(委員長) 土地利用条例より都市マスタープランのほうが上位になります。都市マスタープランで方向を決めたら、例えば、周辺部の丘陵や里山で地域資源を使って加工・販売するのであれば、そこで作ってもいいという方向づけを都市マスタープランの中で示し、土地利用条例はそれに基づき見直しを行うことができます。

地域の中でいろいろな活動が行われていますが、それをバラバラで売っては魅力がないので拠点に持ってきてブランド化して6次産業化、7次産業化しようという提案になっています。

皆さんの意見を踏まえると、それほど矛盾したものではないと思いますが、この内容で概ねよろしいでしょうか。

(異議なし)

これで、ご了解いただいたので、今後は庁内調整会議を経て、修正・肉付けされたものが5月の第5回策定委員会に提出されます。内容としては最後の策定委員会になると思います。

本日言えなかった意見がありましたら、事務局に意見を出していただければ、可能なところは反映していただけたと思います。

これで議事を終わらせていただきます。

4. その他

(事務局) スムーズな進行と闊達なご議論、ありがとうございました。

これをもちまして、第4回伊賀市都市マスタープラン策定委員会を閉会致します。次回は、5月下旬頃の開催を予定しております。

なお、本日の議事の中でご意見等がございましたら、事務局までお伝えください。本日はご出席いただき誠にありがとうございました。

15時07分閉会

以上